

2026年3月4日～6日の3日間、本校で国際理解コース2年生を対象に Global Studies Program を開催しました。このプログラムは、英語漬けの3日間を、1名の講師と6名の留学生の大学生・大学院生と過ごしてもらうことで「共同で行うプロジェクトやディスカッションを通して異文化理解力・英語の力の必要性に気づいてもらう」「日本人とは何か、自己とは何かを考える体験を提供する」ことを目的として行っています。

1日目ではまず、アイスブレイク活動で緊張をほぐしながら、英語で活動する準備を行いました。1グループ5～6名の生徒で活動を行い、それぞれのグループ名を決めたり、各自でこの活動で成し遂げたいゴールを設けたりして、活動に向けて気持ちを盛り上げていきました。今回生徒に人気があった目標は講師の先生が紹介してくれた「Shy Shy Bye Bye !」です。

その後、プレゼンテーションに必要な要素や前向きな気持ちになるために必要なことを考える活動を行いました。その際も、「効果的なプレゼンテーションが必要なのはなぜか」「なぜそのような考え方が求められるのか」について問いかけ、生徒自身が活動の意義を考えられる機会を与えていきました。



2日目には、Self-awareness（自己理解・自己認識）について学び、自分とは何か、自分とはどのような人物なのかについて考えを深めていきました。自分についての良いところを級友に書いてもらう活動をした後、書いてもらったことを元に自分自身の良いところについてのスピーチを行いました。

そうした自己理解への考えを深めた後、自己の将来について思いを馳せました。「留学したい」「自分の好きなことで有名になりたい」「学びを深めたい」など様々なものが出てきましたが、そこには学びが欠かせません。そこで、留学生の母国の教育環境と日本の教育環境を比較しながら、何のために学ぶのかを考えてもらいました。今、この瞬間の学びが将来につながっていることを実感した生徒たちは、講師と留学生の話に大きく頷きを返しており、意義深い時間を過ごしていた様子でした。



最終日には発表を2つ行いました。1つ目は、各グループで考えた「多様性が尊重されている理想の国」についてのプレゼン。2つ目は、各自がこの活動で学んだことや、将来の目標についてのスピーチです。発表前の練習時間から全員が真剣に取り組んでいて、級友同士で協力しながら、素晴らしいスピーチを行うことが出来ました。

「留学したい」「海外で働きたい」「大学で研究をしたい」など、それぞれが自分たちのための目標を掲げ、大きな声で堂々と伝える姿が印象的でした。

最後は全員で記念写真を撮りました。別れを惜しむ姿が充実した活動だったことを物語っていました。English onlyの3日間を乗り越え、大変意義深い活動になったと思います。考えること、問いかけること、そして自ら行動を起こすこと、その大切さを体感できる3日間でした。